

5歳ぐらいから6歳ぐらいのころ読む本

本館にある本

①5歳ぐらいから読める本

<p>三びきのやぎのがらがらどん</p> <p>北欧民話／作 マーシャ・ブラウン／絵 瀬田貞二／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎三びきのやぎが草を食べるために山をのぼっていきます。途中でトロルの住む橋をわたります。小さいやぎ、中くらいのやぎ、そして大きいやぎがトロルと対決します。 Eぶ</p>	<p>わすれられないおくりもの</p> <p>スーザン・バーレイ／作・絵 小川仁央／訳 出版社 評論社</p> <p>◎みんなからとても頼りにされているアナグマが、冬のはじめに手紙を書いて死んでしまいました。友達の素晴らしさが心に残ります。 Eば</p>
<p>しずくのぼうけん</p> <p>マリア・テルリコフスカ／作 ポフダン・プテンコ／絵 内田莉紗子／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎バケツからとびだした一滴のしずくの出会い冒険の旅。水がどこからやってきて、どうなるか？太陽に当たって蒸発したり、雨となって落ちたり。水の目線で旅をします。 Eぶ</p>	<p>キャベツくん</p> <p>長新太／作・絵 出版社 文研出版</p> <p>◎腹ペコのブタヤマさんがキャベツくんを食べようとしませんが、……。キャベツくんとブタヤマさんの楽しい会話。 Eち</p>
<p>はらぺこあおむし</p> <p>エリック・カール／作・絵 もりひさし／訳 出版社 偕成社</p> <p>◎あおむしが、さなぎになって、ちょうになるという、あおむしの成長の物語です。あおむしが食べたあとは、丸く穴があいています。 Eか</p>	<p>スイミー（小さな黒いお魚のはなし）</p> <p>レオ・レオニ／作・絵 谷川俊太郎／訳 出版社 好学社</p> <p>◎スイミーは小さな黒いお魚。兄弟はみんな赤いお魚です。ある日、兄弟達がマグロに食べられてしまいました。マグロに食べられることのないように、ひとつの提案をします。 Eれ</p>
<p>かたあしだちょうのエルフ</p> <p>おのきがく／作・絵 出版社 ポプラ社</p> <p>◎仲間を守るために、ライオンと戦い大事な片足を失ってしまいました。そして、今度は黒ヒョウがおそってきました。エルフの優しさと、強さを感じます。 Eお</p>	<p>さっちゃんのまほうのて</p> <p>たばたせいいち／作・絵 出版社 偕成社</p> <p>◎生まれながらに、手の指のない先天性四肢障害をもったさっちゃん。この本をよんで何を感じますか？ Eさ</p>
<p>すてきな三にんぐみ</p> <p>トミー・アングラー／作・絵 いまえよしとも／訳 出版社 偕成社</p> <p>◎黒いマントに黒いボウシの三にんぐみは、良い人たち？悪い人たち？どろぼうなのにしてきななの？意外な方向になっていきます。 Eう</p>	<p>だいくとおにろく</p> <p>松居直／再話 赤羽末吉／絵 出版社 福音館書店（他からも出版されています。）</p> <p>◎川に橋をかけようとする大工。川に住むおに。大工の代わりにおにが橋をかけますが、「大工の目玉をよこせ！」と言います。 Eあ</p>

<p>むしたちのうんどうかい</p> <p>得田之久／作 久住卓也／絵 出版社 童心社</p> <p>◎林の中の広場で、むしたちのうんどうかいが始まります。走って走って、さあ～、どのむしが速いかな？玉入れや綱引き、むしの得意不得意がわかります。</p> <p>Eく</p>	<p>おだんごぱん(ロシア民話)</p> <p>瀬田貞二／訳 脇田和／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎おだんごなのに、パン？ロシアの民話です。まん丸なパンがころがって、動物たちに食べられそうになりながらも、歌を歌って逃げていきます。でも最後には…。</p> <p>Eわ</p>
<p>ぐるんぱのようちえん</p> <p>西内ミナミ／作 堀内誠一絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎ぐるんぱというぞうが、いくつも勤め先で追い出されて自信をなくしてしまいます。最後に自分の居場所を見つけます。それは…。</p> <p>Eほ</p>	<p>おしゃべりなたまごやき</p> <p>寺村輝夫／作 長新太／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎たまごの大好きな王さまが、ギューギューづめにわとり小屋のカギを開けてしまい、大変なことになるってしまいます。家来たちが犯人を捜しますが…。</p> <p>Eち</p>
<p>てぶくろをかいに</p> <p>にいみなんきち／文 わかやまけん／絵 出版社 ポプラ社</p> <p>◎きつねの親子が住んでいる森にも、雪がたくさん降りました。子ぎつねは手が冷たくてしかたがありません。母ぎつねは子ぎつねのてぶくろを買いに町まで行きます。</p> <p>Eわ</p>	<p>ないたあかおに</p> <p>はまだひろすけ／作 いけだたつお／絵 出版社 偕成社</p> <p>◎村人と仲良くしたいあかおにの話です。相手の気持ちを思いやる心使いや、切ない気持ちが伝わってきます。</p> <p>Eい</p>
<p>てぶくろ</p> <p>ウクライナ民話 エウゲーニー・M・ラチョフ／絵 内田莉沙子／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎寒い冬のなかおじさんが森で、てぶくろを落としてしまいます。そのてぶくろの中に森の動物達が入っていきます。そんなに入らないでしょう！？ぎゅうぎゅう詰めです。</p> <p>Eら</p>	<p>あくたれラルフ</p> <p>ジャック・ガントス／文 ニコール・ルーベル／絵 いしいももこ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎女の子セイラが飼っているネコのラルフは、大のいたずら好き。いろんないたずらをやりたい放題。でも、セイラはラルフが大好き。</p> <p>Eる</p>
<p>みみずのオッサン</p> <p>長新太／作・絵 出版社 童心社</p> <p>◎みみずのオッサンって？？ペンキとクレヨン工場が爆発して、みんな固まってしまいます。そこで、オッサンが活躍します。</p> <p>Eち</p>	<p>しろいうさぎとくろいうさぎ</p> <p>ガース・ウィリアムズ／文・絵 まつおかきょうこ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎とても仲良しの、しろいうさぎとくろいうさぎ。でもくろいうさぎは楽しく遊んでいても、悲しい顔になり考え事をします。最後は幸せになります。</p> <p>Eう</p>

<p>三びきのくま 森山京／文 柿本幸造／絵 出版社 小学館</p> <p>◎大きなくまと中くらいのくまと小さなくまと、女の子のお話です。ある朝、三びきのくまがスープが冷めるまで散歩に出掛けている間に…。イギリスの昔話です。</p> <p>Eか</p>	<p>おふろだいすき 松岡享子／作 林明子／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎おふろがだいすきになる絵本です。まこちゃんがおもちゃのブッカとおふろにはいります。すると大きなカメがおふろからでてきます。次はどんな動物がでてくるのかな？</p> <p>Eは</p>
<p>かもさんおとおり ロバート・マックロスキー／作・絵 渡辺茂男／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎かもの夫婦マラードさんが8羽のコガモを産みました。川から公園へ引っ越しをします。途中道路を渡ったり、おまわりさんに守ってもらったり、ハラハラドキドキします。</p> <p>Eま</p>	<p>ピッツアぼうや ウィリアム・スタイグ／作・絵 木坂涼／訳 出版社 セーラー出版</p> <p>◎ビートという男の子をピザに見立ててお父さんがひっぱたり、のぼしたりします。子どもが大喜びする絵本です。</p> <p>Eす</p>
<p>こいぬがうまれるよ ジョアンナ・コール／作 ジェローム・ウェクスラー／写真 つぼいいくみ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎生まれたばかりのこいぬを見たことありますか？絵本を見たあとは、こいぬがほしくなってしまう。</p> <p>J645こ</p>	<p>へっこきあねさがよめにきて 大川悦生／作 太田大八／絵 出版社 ポプラ社</p> <p>◎働きもののお嫁さんが元気がなくなっていくのは、尻を我慢しているという…。尻をすると！？</p> <p>Eお</p>
<p>かんがえるカエルくん いわむらかずお／作・絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎カエルくんとネズミくんが色々なことを考えます。考えているカエルくんの顔がとてもかわいいです。</p> <p>Eい</p>	<p>たんぼぼ 平山和子／文・絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎科学の絵本です。たんぼぼについて詳しく書かれています。一日のうちで花が開いたり閉じたりするようですよ！！</p> <p>Eひ</p>
<p>よもぎだんご さとうわきこ／作・絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎よもぎだんごの作り方が絵本で楽しめます。読んで後は作ってみましょう！</p> <p>Eさ</p>	<p>おじいちゃんのごらくごらく 西本鶏介／作 長谷川義史／絵 出版社 鈴木出版</p> <p>◎主人公のゆうたは、おとうさん・おかあさん・おじいちゃんのお4人家族。ゆうたとおじいちゃんは仲良しです。悲しいお別れがきます。</p> <p>Eは</p>

<p>きいろいばけつ</p> <p>もりやまみやこ／作 つちだよしはる／絵 出版社 あかね書房</p> <p>◎主人公はきつねの子です。ある日きいろいばけつを見つけました。一週間ばけつのことを考えて過ごします。</p> <p>J913も</p>	<p>だごだごころころ</p> <p>石黒なみ子／作 梶山俊夫／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎関西弁で書かれていてテンポよく進みます。魔法のしゃもじもでてきます。</p> <p>Eか</p>
---	---

南下浦分館にある本

①5歳ぐらいから読める本

<p>三びきのやぎのがらがらどん</p> <p>北欧民話／作 マーシャ・ブラウン／絵 瀬田貞二／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎恐ろしいトロールから逃れるため、小さいやぎ、中くらいのやぎは、「もっと大きいやぎが来るから」と答えます。最後にやってきた大きいやぎはどうしたでしょう？ハラハラドキドキの一冊です。</p> <p>Eぶ</p>	<p>おじさんのかさ</p> <p>佐野洋子／作・絵 出版社 講談社(他からも出版されています。)</p> <p>◎雨が降ってもかさをささないおじさん。かさがぬれるのがいやなのです！子どもたちの歌を聞いてかさをひろげてみると・・・。</p> <p>Eさ</p>
<p>しずくのぼうけん</p> <p>マリア・テルリコフスカ／作 ポフダン・ブテンコ／絵 内田莉紗子／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎水が水蒸気になったり、雲になったり、雨になったり…水の変化を学べる科学の絵本です。</p> <p>Eぶ</p>	<p>お月さまってどんなあじ？</p> <p>マイケル・グレイニエツ／作・絵いずみちほこ／訳 出版社 セーラー出版</p> <p>◎お月さまを一口かじってみたくて、動物たちがお互いの背中にのぼって、上に上にお月さまをめざして」いきます。さて、お月さまのあじは？</p> <p>Eぐ</p>
<p>さんまいのおふだ</p> <p>水沢謙一／再話 梶山俊夫／絵 出版社 福音館書店 (他からも出版されています。)</p> <p>◎こわい昔話のひとつです。危ないときに使うようにと、もらったさんまいのお札で鬼ばばから逃げるこぞうですが…。最後は和尚が「とんち」でやっつけます。</p> <p>Eか</p>	<p>さっちゃんのまほうのて</p> <p>たばたせいいち／作・絵 出版社 偕成社</p> <p>◎生まれつき指のないさっちゃんの手を、お父さんが「不思議な力をくれるまほうの手」と言ったことで、さっちゃんは力強く歩み始めます。困難に負けないさっちゃんの姿が勇気をくれます。</p> <p>Eさ</p>
<p>スイミー (小さなしこいさかなのはなし)</p> <p>レオ・レオニ／作・絵 谷川俊太郎／訳 出版社 好学社</p> <p>◎教科書にも載っている有名作品です。兄弟たちがみんな赤いのに一匹だけ黒いスイミーが、知恵と自分の特徴を活かして仲間たちを救うラストは必見です。</p> <p>Eれ</p>	<p>もりはおもしろランド2 もりのおかしやさん</p> <p>舟崎靖子／作 舟崎克彦／絵 出版社 偕成社</p> <p>◎お誕生日にはその動物の形のケーキを作ってくれる、いたちのケーキやさん。長い四角一つに、短い四角五つ。丸が一つ、誰？</p> <p>J913ふ</p>

<p>にじいろのさかな</p> <p>マーカス・フィスター／作・絵 谷川俊太郎／訳 出版社 講談社</p> <p>◎キラキラするきれいな絵本です。にじいろのうろこをもった美しい魚。友達の大切さ、友達のいる幸せを感じます。</p> <p>Eふ</p>	<p>うらしまたろう</p> <p>大川悦生／文 村上幸一／絵 出版社 ポプラ社（他からも出版されています。）</p> <p>◎みんなが知っている「うらしまたろう」いじめられているかめを助けて、竜宮城へ行き、玉手箱をもらって帰ると・・・。</p> <p>Eむ</p>
<p>ずてきな三にんぐみ</p> <p>トミー・アングラー／作・絵 いまえよしとも／訳 出版社 偕成社</p> <p>◎タイトルに似合わない、ちょっと怖そうな表紙ですが…タイトル通りのとってもずてきな結末を迎えます。</p> <p>Eう</p>	<p>おだんごぱん(ロシア民話)</p> <p>瀬田貞二／訳 脇田和／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎おじいさんおばあさんからまんまと逃げだして、他の動物たちもかわしていくおだんごぱんですが、頭のいいキツネに出会ってしまい…？ちょっと衝撃のラストです。</p> <p>Eわ</p>
<p>むしたちのうんどうかい</p> <p>得田之久／作 久住卓也／絵 出版社 童心社</p> <p>◎いろいろな虫たちが集まって運動会！それぞれの虫の特徴も学べる一冊です。</p> <p>Eく</p>	<p>おしゃべりなたまごやき</p> <p>寺村輝夫／作 長新太／絵 出版社 福音感書店</p> <p>◎にわとり小屋のカギを開けてにわとりを逃がしてしまったことを内緒にしていた王様ですが、目玉やきがしゃべりだしてしまい…？</p> <p>Eち</p>
<p>ぐるんぱのようちえん</p> <p>西内ミナミ／作 堀内誠一／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎ぞうのぐるんぱが何度も失敗しますが、最後の最後にそれまでの失敗も挽回して大成功します！</p> <p>Eほ</p>	<p>てのひらおんどけい</p> <p>浜口哲一／文 杉田比呂美／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎てのひらで、いろいろなものを触ってみよう！自転車や砂場や木。「あったかい？つめたい？」さあ～大発見をしにいこう！</p> <p>Eす</p>
<p>てぶくろをかいに</p> <p>にいみなんきち／文 わかやまけん／絵 出版社 ポプラ社</p> <p>◎教科書で読んだという方もいるのではないのでしょうか。不朽の名作です。途中ドキドキさせられますが、最後はとても温かい気持ちになります。</p> <p>Eわ</p>	<p>ふうせんばたけのひみつ</p> <p>ジャーティン・ノーレン／作 アーク・ピーナー／絵 山内智恵子／訳 出版社 徳間書店</p> <p>◎はたけにふうせんがいっぱい！！どんな種をまいたらふうせんが生えるのかな？</p> <p>Eび</p>

<p>こいぬがうまれるよ</p> <p>ジョアンナ・コール／作 ジェローム・ウェクスラー／写真 つばいいくみ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎お母さんのおなかにいるところから始まり、食べたり坐ったりできるようになるまでの子犬の成長を、写真で学ぶことができます。</p> <p>J645こ</p>	<p>たんぼぼ</p> <p>平山和子／文・絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎たんぼぼの生態を学べる一冊です。写真顔負けに描かれた絵は必見です！</p> <p>Eひ</p>
<p>へっこきあねさがよめにきて</p> <p>大川悦生／作 太田大八／絵 出版社 ポプラ社</p> <p>◎へっこきあねさがおならをするシーンの迫力は、みんな思わず笑ってしまいます。「へや」という言葉の語源としてまとめるラストは秀逸です。</p> <p>Eお</p>	<p>こすずめのぼうけん</p> <p>ルース・エインズワース／作 堀内誠一／絵 石井桃子／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎こすずめが初めて飛びたったときのお話です。疲れていても休むところが見つかりません…。こすずめはどうなるのかな？</p> <p>Eほ</p>
<p>よもぎだんご</p> <p>さとうわきこ／作・絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎元気いっぱいのおばあちゃんが、野草の見つけ方、食べ方を教えてください！</p> <p>Eさ</p>	<p>おじいちゃんのごらくごらく</p> <p>西本鶏介／作 長谷川義史／絵 出版社 鈴木出版</p> <p>◎お風呂に入って「ごらくごらく」という、大好きなおじいちゃん。楽しい日々が過ぎ、最後に本当にごらくに行ってしまう。大切な人との別れ、思わず涙してしまう一冊です。</p> <p>Eは</p>

初声分館にある本

①5歳ぐらいから読める本

<p>いやいやえん</p> <p>中川李枝子／作 大村百合子／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎チューリップ保育園に通うイタズラ好きのしげるくんが、「いやいやえん」という保育園に入れられてしまう話など、ワクワクするようなお話が7編入っています。</p> <p>I913な</p>	<p>三びきのやぎのがらがらどん</p> <p>北欧民話／作 マーシャ・ブラウン／絵 瀬田貞二／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎とっても怖いトロールが出てきてドキドキしますが、最後は一番大きいやぎが見事に勝って、子どもたちも大喜びです！</p> <p>Eぶ</p>
<p>わすれられないおくりもの</p> <p>スーザン・バーレイ／作・絵 小川仁央／訳 出版社 評論社</p> <p>◎アナグマは年を取って死んでしまいましたが、みんなの心にはアナグマとの思い出が残りました。優しい気持ちになれる一冊です。</p> <p>Eば</p>	<p>しずくのぼうけん</p> <p>マリア・テルリコフスカ／作 ポフダン・ブテンコ／絵 内田莉紗子／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎しずくが、ほこりまみれになったり、クリーニング屋に行ってみたり、病院に行ってみたり、果ては雲になったり雨になったり大冒険します！</p> <p>Eぶ</p>

<p>あおい目のこねこ</p> <p>エゴン・マチーセン／作・絵 せたていじ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎あおい目をもったねこが、黄色い目のねこたちにばかにされたり、色々なことがおこるなかで、ねずみの国をみつけに行きます。</p> <p>J949ま</p>	<p>はらぺこあおむし</p> <p>エリック・カール／作・絵 もりひさし／訳 出版社 偕成社</p> <p>◎みんな大好きしかけ絵本です！子どもたちは穴に指を入れて大喜びです。</p> <p>Eか</p>
<p>ようこそ森へ</p> <p>村上康成／作・絵 出版社 徳間書店</p> <p>◎森に住む鳥のカケスと、その時にキャンプに来た家族のお話。カケスからメッセージを送ります。キャンプに行きたくなりますよ。</p> <p>Eむ</p>	<p>うらしまたろう</p> <p>大川悦生／文 村上幸一／絵 出版社 ポプラ社（他からも出版されています。）</p> <p>◎一度は読んでおきたい、あの有名な昔話です。はじめて読んだ子どもは衝撃のラストにびっくりしてしまうかも…？</p> <p>Eむ</p>
<p>だいくとおにろく</p> <p>松居直／再話 赤羽末吉／絵 出版社 福音館書店（他からも出版されています。）</p> <p>◎どうしても橋をかけられない川、鬼の力を借りて橋をかけてもらった大工ですが、「目玉をよこせ」と言われてしまい…ハラハラドキドキの一冊です。</p> <p>Eあ</p>	<p>花さき山</p> <p>斎藤隆介／作 滝平二郎／絵 出版社 岩崎書店</p> <p>◎最近、優しいことをしましたか？10歳の女の子、あやは道に迷って一面の花の咲く山で、やまんなに会いました。その花は、人間が優しいことをするとひとつ花が咲くという。</p> <p>Eた</p>
<p>ぐるんぱのようちえん</p> <p>西内ミナミ／作 堀内誠一絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎失敗しても失敗しても頑張り続けたぐるんぱの作ったとっても素敵な幼稚園、「こんな幼稚園で遊んでみたい！」と夢が膨らみます。</p> <p>Eほ</p>	<p>おしゃべりなたまごやき</p> <p>寺村輝夫／作 長新太／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎たまごやきが大好きな、お茶目な王様が主人公。にわとりを逃がしたことを黙っていたけれども…？</p> <p>Eち</p>
<p>ないたあかおに</p> <p>はまだひろすけ／作 いけだたつお／絵 出版社 偕成社</p> <p>◎あかおにのために自分を犠牲にする優しいあおおに、友情の大切さに感動させられる一冊です。</p> <p>Eい</p>	<p>はだかの王さま</p> <p>H・Cアンデルセン／著 イブタルレ／イラスト 木村由利子／訳 出版社 偕成社（他からも出版されています。）</p> <p>◎誰もが知っている、はだかの王さま。馬鹿な人には見えないという服を着て、パレードをしますが、「王さまは、はだかだよ！」と言ったのは……。</p> <p>J949あ</p>

<p>てぶくろ</p> <p>ウクライナ民話 エウゲーニー・M・ラチョフ／絵 内田莉紗子／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎おじいさんの落としたてぶくろの中に、「いれて」「どうぞ」とどンドン動物たちが入っていき…どうなるの…？とハラハラドキドキです！</p> <p>Eら</p>	<p>たいせつなこと</p> <p>マーガレット・ワイズ・ブラウン／文 レナード・ワイズガード／絵 うちだややこ／訳 出版社 フレーベル館</p> <p>◎とてもすてきな心に残る絵本です。たいせつなことがいろいろ書かれています。</p> <p>Eわ</p>
<p>しろいうさぎとくろいうさぎ</p> <p>ガス・ウィリアムズ／文・絵 まつおかきょうこ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎仲良しのしろいうさぎと一緒にいるのに、くろいうさぎが時々悲しそうなのは…？優しいハッピーエンドです。</p> <p>Eう</p>	<p>むしたちのさくせん</p> <p>宮武頼夫／作 得田之久／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎むしが好きな子どもさんにおすすめです。むしはたくさんいるのに、なぜみつからないのでしょうか？他のむしに食べられないように作戦をたてています。</p> <p>Eと</p>
<p>おへそのひみつ</p> <p>やぎゆうげんいちろう／作・絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎おへそには重要な役割があることがわかります。カミナリ様におへそを食べられちゃう?!おへそのそうじをすると、おなかが痛くなる?!</p> <p>Eや</p>	<p>かもさんおとおり</p> <p>ロバート・マックロスキー／作・絵 渡辺茂男／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎かもの一家が引っ越しのため道路を通るので、おまわりさんは車を止め、交通整理に大忙し!心温まる一冊です。</p> <p>Eま</p>
<p>おつきさまこっちむいて</p> <p>片令子／作 片山健／絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎おつきさまは見るたびに姿をかえます。三日月だったり、半月だったり、満月だったりします。そしてぼくのあとをついてきます。</p> <p>Eか</p>	<p>こいぬがうまれるよ</p> <p>ジョアンナ・コール／作 ジェローム・ウェクスラー／写真 つばいいくみ／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎かわいい子犬の写真に癒されますが、ひとり立ちのシーンには感動してしまいます。子育てのことを思い出してしまうかも…。</p> <p>J645こ</p>
<p>タンゲくん</p> <p>片山健／作・絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎野良猫のタンゲくんが、私の家にやってきました。外で会っても知らんぷりだけど、夜には家に帰ってきて私の作ったごはんを食べます。</p> <p>Eか</p>	<p>かんがえるカエルくん</p> <p>いわむらかずお／作・絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎四コマ漫画風の癒し系な絵で進みますが、カエルくんの疑問は、科学的・哲学的、多岐にわたり、大人にも読みごたえ抜群です!</p> <p>Eい</p>

<p>よもぎだんご</p> <p>さとうわきこ／作・絵 出版社 福音館書店</p> <p>◎ばばあちゃんが子どもたちとよもぎだんごを作ります。ばばあちゃんシリーズは他にもあって、おいしいものの作り方が満載です！</p> <p>Eさ</p>	<p>おじいちゃんのごらくごらく</p> <p>西本鶏介／作 長谷川義史／絵 出版社 鈴木出版</p> <p>◎おじいちゃんとお別れのシーンは、大人も涙してしまうほど。大切な人との限りある時間を大切にしたいと思わせてくれる一冊です。</p> <p>Eは</p>
<p>ガラスめだまときんのつなのヤギ</p> <p>白ロシア民謡 スズキコージ／絵 田中かな子／訳 出版社 福音館書店</p> <p>◎おばあさんの麦畑をヤギがあらしてしまいます。おばあさんを助けようと、いろいろな動物がでてきます。ヤギをやっつけるのは？</p> <p>Eす</p>	